

鈴鹿の風 すずかのかぜ

VOL.

30

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌

名誉院長就任のごあいさつ
病院長就任のごあいさつ

新規採用職員・転入職員紹介

新任者の紹介

医学コラム

名誉院長の部屋「ディーノ・フェラーリ」

鈴鹿病院NEWS

昭和・平成スポーツオタクコラム—番外編—



名誉院長就任のごあいさつ

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 名誉院長 こなが や まさあき 小長谷 正明



平成14年4月1日に、任命権者厚生労働大臣坂口力と書かれた「国立療養所鈴鹿病院長に任ずる」の辞令をいただき、病院に戻ると、サクラの木々の向こうに、古びてくすんだ病棟が幾つも並んでいました。「縄文時代みたいな建物で、21世紀の医療かよ」とつい小声でつぶやきましたが、僕がこの病院にしてやれることは、古色蒼然たる施設と体制の近代化だ、幸い、経営面では黒字の優良病院であると、思い直しました。病院長としての最初の管理診療会議、次のように抱負を述べたことを覚えています。

「いつか、この病院を小さくてもキラリと光るものにした。」と。

早速手がけたことは、結核病床の一般病床（神経難病）への転換であり、それ以降、下書き連ねるように、徐々に課題懸案を15年間にわたってこなしてきました。

平成15年10月	結核病床の廃止、一般病床（神経難病）への転換。
平成16年4月	独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院へ移行。
平成17年10月	全国筋ジストロフィー施設長協議会会長（小長谷）
平成18年10月	筋ジス病床への障害者自立支援法適応（療養介護事業）
平成20年4月	スモンに関する調査研究班、主任研究者（小長谷）
平成22年3月	中央病棟開棟（4個病棟240床、機能訓練、療育部門の近代化）
平成24年12月	外来診療棟開棟（1個病棟36床、外来・診療部門、手術室、管理部門の近代化）、MRI運用開始
平成26年1月	創立70周年記念式典
平成26年3月	電子カルテ運用開始
平成27年7月	神経難病病床増床、計290床に（神経難病50、筋ジス120、重心120）
平成28年10月	第三回筋ジストロフィー医療研究会主宰
平成29年3月	エネルギー棟改築スタート（これにて鈴鹿病院全施設の近代化完成予定）

リストにしてしまうと、ほんの数行ですが、それぞれの事業には多くの準備や折衝がありました。心労が多くて大変でした。はるばる来ぬる病院長職と感慨に更ける同時に、すべての施設整備を借入金なしで済ませ、次世代に負債を残さなかったことを誇りに感じています。

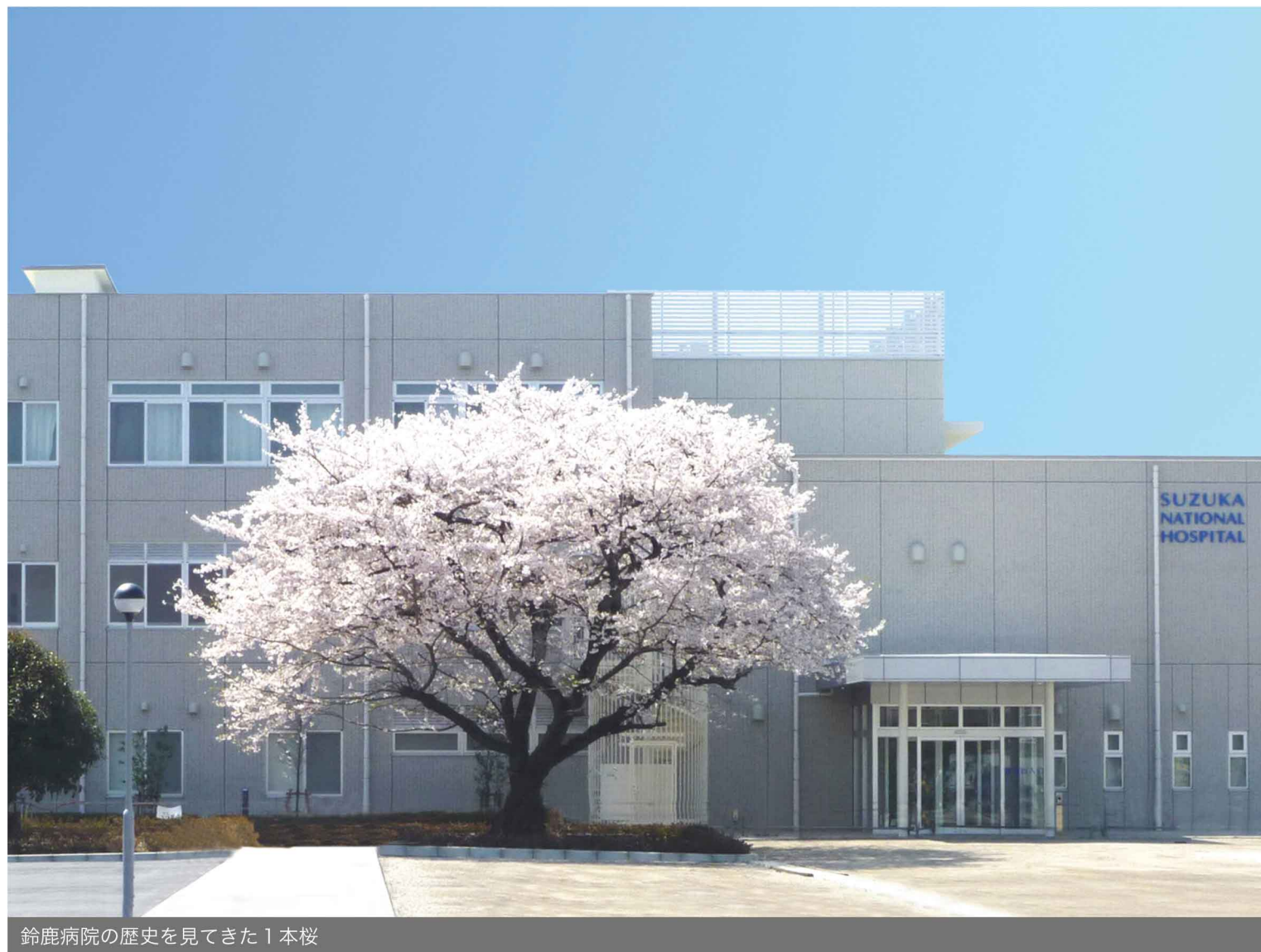
しかし、15年の間には、深刻なトラブルがいくつか襲って来もしました。病院を守り、発展の阻害にならないように、私も先頭に立って対応に努力しましたが、不幸な結果に終わったこともあり、忸怩たる思いもします。

この間の医療環境の変化や医学の進歩はめざましく、今後を考えるとめ眩く思いがします。真に21世紀の難病医療（含む筋ジス、重心）の場になるには、医師や看護師をはじめとする良質な医療従事者と職員の充実が必要です。残念ながら、私にはこれらに答えるための時間が十分残されていないような気が致し、若くて志の高い後進に託すことにいたしました。

なお、私は国立病院機構理事長より名誉院長の称号を頂きましたが、神経難病診療やスモン調査研究班の仕事など、今後も鈴鹿病院に留まって、発展に尽くすつもりであります。

私の病院長としての15年の年月を一緒に歩いてくださった、各ドクターと、7人の歴代事務（部）長、6人の総看護師長・看護部長をはじめとする数多くの職員のサポートに感謝いたします。

平成29年4月1日



鈴鹿病院の歴史を見てきた1本桜

病院長就任のごあいさつ

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 院長 く る さとし 久留 聡



このたび、小長谷先生の後任として院長に就任致しました久留聡と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は、平成9年

に当時の国立療養所鈴鹿病院に神経内科医として赴任し、以後20年間当院一筋に奉職し、主に筋ジストロフィー、神経難病の診療および臨床研究に従事してまいりました。赴任当時は、広大な敷地に古い平屋建ての7個の病棟が点在する牧歌的な雰囲気でした。前院長の御努力もあり、3階建ての中央診療棟、外来診療棟が新築され、新たにMRIや電子カルテが導入されるなど施設整備が急速に進み一気に近代化致しました。ただ、この現状に満足することなく、当院をさらに発展させるよう努力していきたいと考えています。

当院は神経難病、筋ジストロフィー、重度心身障害児（者）の診療を長年行っています。これまで通り、職員が一丸となって患者様のQOLの向上をめざすという方向性にはいささかのゆるぎもありません。医学・医療は常に

発展し続けており、昨年はアメリカで初めて筋ジストロフィーの治療薬が承認されるという素晴らしいニュースもありました。このような時代の変化に対応するべく、われわれは常に最新の医療、看護・介護技術を貪欲に取り入れていく姿勢を保ち続けるよう努力したいと考えています。また、従来より神経筋疾患患者様の呼吸管理に積極的に取り組んでおり、常時100台を超える人工呼吸器が稼働していますので医療安全には細心の注意を払う必要があります。さらに本年度からは、難病拠点病院に指定されることになりましたので、より一層診療の充実を図りたいと思います。

研究面では、他の国立病院機構病院や大学病院などと協力しながら臨床研究に力を入れ、少しでも医学の発展に貢献できるよう努力していきたいと考えます。それとともに、これまで当院の臨床研究部が独自に展開してきた筋疾患の画像研究、筋ジストロフィーの呼吸管理、神経難病の病理研究も継続して実施し、より発展させていきたいと考えています。さらには、教育面では関連施設からの実習生の受け入れや各種の研修やセミナーの開催などを通じて後進の育成にも力を注いでいく所存です。医師のマンパワー不足と高齢化は当院が直面する切実な問題ではありますが、若くてやる気のある医師をリクルートし、次の時代の鈴鹿病院を担う人材を育成していくことが使命であると強く考えています。

新たな船出となる鈴鹿病院ですが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

新規採用職員 転入職員紹介



むら かみ か
村上あゆ香
神経内科医師

はじめまして。今までは名古屋医療センター、名古屋大学等で診療をしてきました。患者さんやスタッフの方々に気軽に声をかけて頂き頼ってもらえるよう頑張りたいです。よろしくお願いします。



いま むら めぐみ
今村 恵
看護師

患者さんの安全・安楽を第一に考え、患者さんとご家族の目線に立ち、心に寄り添えるよう日々精進して参ります。



おく ひら はる き
奥平春紀
看護師

患者さんの思いに寄り添い、患者さん一人一人に笑顔を届けられるよう頑張りたいです。



こん どう ゆり な
近藤由梨奈
看護師

患者さんの思いに寄り添い、信頼関係を築いていけるようにいつも笑顔忘れずに看護をしていきたいです。



いち みつ や
一見克也
看護師

毎日が日々勉強であると考え、今、自分ができることを精一杯頑張りたいです。皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。



いっ しき り お
一色莉緒
看護師

いつも患者さんの思いにしっかりと寄り添いながら、安全・安楽に過ごしていただけるような看護を行えるよう知識・技術を身に付けていきたいです。



うえ むら あ き
上村亜希
看護師

患者さんひとりひとりの想いに寄り添い、個別性のある看護を行えるよう、日々の関わりの中で観察を大切に頑張っていきたいです。



お ふじ いっ ぺい
尾藤逸幣
看護師

患者さんひとりひとりの思いに寄り添った看護が出来るように、また安心して過ごして頂けるように日々努力していきます。



かわ べ あい
川邊 藍
看護師

患者さんの小さな変化に気付けるよう日々の観察を大切に、知識・技術の向上を目指して、一人一人のニーズにあった看護を心掛けていきたいです。



はっとり み き
服部美紀
看護師

未経験の分野で初めてのことでありますがスタッフの方のご指導をいただき、1日でも早くチームの一員となり、信頼できる看護師になれるよう努力したいと思います。



ば ば ゆり こ
馬場百合子
看護師

鈴鹿病院で働き始めてまだ間もないですが、とても笑顔の多い素敵な病院だと感じています。笑顔や常に学ぶ姿勢を忘れず、広い視野を持ち、患者さんによりよい看護を提供できるよう頑張りますので宜しくお願い致します。



ふじ わら か すみ
藤原華純
看護師

少しのことから声をかけをしっかりと行い、ひとりひとりの個性に合わせた看護ができるよう努力していきたいです。



まつ なが てる み
松永照美
看護師

呼吸器系の看護について専門性を深めるとともに個々の患者さんに寄り添って、心から安心して信頼して頂ける看護師を目指したいと思っています。皆さま、ご指導よろしくお願いします。



まつ もと ゆう り
松本悠鈴
看護師

患者さんと日々の関わりを大切に、知識・技術を身につけていきたいと思っています。看護という仕事を通して、人として看護師として成長できるよう精進していきます。



や の りょう こ
矢野僚子
看護師

患者さんが安全・安楽に過ごしていたけるように、患者さんの立場になって物事を考え、それぞれ患者さんに合った看護を行っていけるよう日々努力します。



やました か おり
山下香織
看護師

患者さんに安全・安楽な援助が出来るように患者さんひとりひとりの個性に合わせた看護を行っていけるよう努力します。また、日々笑顔を忘れず、患者さんの思いに寄り添っていけるよう頑張っていきたいです。



い なみ けい こ
井波恵子
看護師

常に患者様・その家族の立場に立って考え、安全・安楽な看護を提供していきたいです。何かと不慣れでご迷惑をおかけする点も多いと思いますが、よろしくお願いします。



くさ ふか あや か
草深絢香
算定・病歴係

健康に気をつけて元気に頑張っていきたいです。1日でも早く医療の現場を支える一員になれるよう努力してまいりますのでよろしくお願いします。



いま い ち ひろ
今井千尋
業務技術員

一日でも早く仕事を覚えて鈴鹿病院のスタッフの一員になれるように頑張りたいと思います。



わかばやし ゆ き こ
若林友紀子
業務技術員

リハビリされている患者さん・ご家族に名前を覚えて頂けるよう笑顔で接することを心掛けたいと思います。一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。



せん みょう
泉名ひとみ
看護師 転入

東名古屋病院より異動して参りました。1人1人の想いに寄り添ったあたたかい看護が行えるよう頑張りたいと思います。一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



すず き あき ひさ
鈴木章久
看護師 転入

4月から三重中央医療センターから転動してきました。新しい環境に戸惑うことも多いかもしれませんが早く職場に慣れるようがんばります。患者さんによりよい生活環境と看護ケアを提供できるように学んでいきたいです。



新しい職場となる鈴鹿病院



なる せ よし え
成瀬美恵

看護部長

三重中央医療センター附属三重中央看護学校から赴任して参りました。

鈴鹿病院は看護学生が実習でお世話になりました。熱心な指導、アットホームな病棟の雰囲気、そして何より患者様との日々の関わりを肌で感じ、就職先を決める学生が多かったです。そんな縁のある鈴鹿病院で働けることをうれしく思っています。

久留院長先生をトップに新しい体制となります。私も初めての職で緊張しております。皆様のご指導、ご協力を受けながら、患者様からもまた働く看護師も満足感のある、より質の高い看護の提供を目指して頑張っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ふじ たに かず み
藤谷和美

看護師長

東名古屋病院より赴任して参りました。出身は三重県です。鈴鹿病院は、平成21年度副看護師長交換研修以来となります。

丁度、桜も見ごろを迎え、風光明媚な環境ときれいで広い病院、そして当該病棟の生き生きした職員の姿に新たな刺激を頂いています。重症心身障がい児(者)の看護の経験はありませんが、当院看護部の理念である“一人ひとりの生活の質を大事にしながら ぬくもりと安心していただける看護”を探究し、病棟スタッフと一丸となって取り組んでいきたいと思います。

ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



お の とし ひ で
小野寿英

撮影透視主任

名古屋医療センターより赴任して参りました。出身は三重県ですが、10年間三重の地を離れていましたので、鈴鹿病院を初めて訪れた時、なんとなく耳にした患者さんの話し方に懐かしさを感じました。鈴鹿病院は、とても綺麗な施設で、設備等也非常に充実しているので、働けることを本当にありがたいと思っています。皆さんの働きや充実した環境についていけるのか不安もありますが、放射線部門や画像システムを中心に多くのことに携わっていきたいと考えています。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、一日でも早く、皆さんと肩を並べて働けるように精進していきますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

新任者の紹介

introduce our new member



こ ま せ あきよし
小馬瀬明義

栄養管理室長

この度、富山病院より赴任して参りました。この鈴鹿病院で11施設目ですが三重県の勤務は初めてで東海北陸6県全県制覇となりました。

神経難病、筋ジストロフィーの施設は医王病院でも経験しており、戸惑うことなく業務に遂行できると考えています。患者様の療養生活の中で、安心安全は基より少しでも満足できるよう食事の提供を心がけるよう努力してまいりたいと思います。

まずは病院の雰囲気慣れることから焦らず着実にやって行きたいと思しますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



た がわ あや こ
田川綾子

看護師長

三重病院から赴任して参りました。筋ジストロフィー病棟に着任いたしました。三重病院での重症心身障がい児者病棟、神経内科病棟、呼吸器内科病棟での経験を活かし患者様により良い看護を目指してスタッフと共に精一杯努めていきたいと思います。

鈴鹿病院の患者様との出会いを大切に笑顔の多い病院にしていきたいと願っています。まだまだわからないことが多く、ご指導下さいますようよろしくお願い致します。



にし かわけん ぎ
西川淳紀

契約係長

この度、三重中央医療センターから赴任してまいりました西川と申します。地元は三重県津市出身のため三重県は地元になりますが、初めての転勤となり不安は少なからずあります。

事務部は直接患者様と接する機会が少ない部署ですが、事務部ならではのアプローチを自分自身で考え実行できればと思っています。

外からきた自分自身だから気づける鈴鹿病院の良さを外部に発信し、また自分のできる力を精一杯発揮し業務に精進していきますので、みなさまどうぞよろしくお願い致します。



「囲碁と人工知能(AI)」

神経内科の木村です。今回は私の趣味と関連して囲碁のお話をします。

昨年、囲碁界には二つの大きなニュースがありました。国内では井山棋聖の七冠制覇。世界では囲碁AI「α碁」による世界最強棋士の一人であるイ・セドル9段への勝利です。どちらも、私が生まれてから囲碁史上最大の出来事でした。井山棋聖が七冠達成した最期の相手こそ鈴鹿市出身の若き天才棋士である伊田十段(当時)です。伊田さんの才能を見だした師匠である馬場九段は、多くのアマチュアも指導しておられ、実は私も2年前から教わっています。囲碁界の大ニュースが、意外に身近なものでした。

囲碁は19路×19路の361個の格子の上に黒と白の石を交互に置いていくゲームです。日本では古くは平安文学にも登場し、戦国武将にも好まれました。江戸時代の本因坊家の開祖となった算砂は、信長、秀吉、家康に仕えていました。囲碁は19路の縦横のどの地点に石を置いたか数字(文字)で表せることから全ての試合をそっくり再現出来ます。また、どこに石を置くか自由度が高いのでそっくり同じ碁は二度と現れずその変化は、361の階乗(361×360×359×…)程はあると考えられますから宇宙の全素粒子の数より多いと言われていました。そのため、シラミつぶしの計算は通用せず人工知能が人間に勝つには感性とか感覚的な

部分を越える必要がありました。

Googleはネット界の巨人というべき大企業ですが、人工知能の開発を目標に掲げており囲碁AIの開発を進めました。詳細は省きますがディープラーニングという手法を用いて囲碁AI「α碁」は自分対自分の対局を何百万回と繰り返し自分で学習して強くなったようです。そうして強くなったAI対人間の対局をみると驚くべきことに感覚的な領域、漠然とした答えの無い様な局面ですばらしい一手を打っています。

いつか、AIが俳句や小説、音楽や絵画もつくる、そんな予感さえるのです。AIの発達はどんな未来を見せてくれるでしょうか。

(第一神経内科医長 木村 正剛)



(中央)筆者 (右)白江プロ 東京ホテルグランドパレス碁会にて 有段者の部優勝



表紙を飾る12名の新規採用看護師(新卒者)たち。桜吹雪舞う春空の下、今年は病院正面玄関横で撮影しました。

一般的に病院の広報誌というと「内容が堅いもの」というイメージがありますが、今回のリニューアルをきっかけとして、写真を多く掲載することでより分かりやすく、読みやすい、親しみやすい広報誌を目指していきたいと考えています。また、「鈴鹿の風」表紙の新タイトルロゴは今年度新規採用職員の草深絢香さんに筆書きをお願いしました。草深さんは小学3年生の頃から書道を始め、大学時代には第20回全国高校・大学書道展賞を受賞されるなど凄腕の持ち主です。まさに鈴鹿病院に新しい風を吹き込んだ彼女。その風に乗せて皆さまへ当院の魅力や新鮮な情報をお届けしていけるよう編集委員一同励んでまいります。

今後も広報誌「鈴鹿の風」をよろしくお願い致します。

(地域医療連携室/広報編集委員一同)

名誉院長の部屋

名誉院長 小長谷 正明

ディーノ・フェラーリ

鈴鹿は言わずと知れたモータースポーツのメッカで、ワールド・フェイマス町です。毎年秋のF1レースのスズカ・グランプリのシーズンに入ると、試運転やチューンナップするマシンのエンジンの轟音が5、6キロも離

れているこの病院にも届きます。つい数年前までは、ミハエル・シューマッハが赤いフェラーリのマシンを駆って勝利を重ね、エンブレムの跳ね馬のいななきが町中に響き渡っているようでした。



フェラーリ創業者の息子 アルフレード・フェラーリ

そのフェラーリの、一般向けスポーツカーにディーノ・フェラーリがありました。ディーノはフェラーリ家の御曹司で、実は、この子は難病にかかっていたのです。

幼いアルフレード・フェラーリは、レーシング・マシンのドライバーを夢見ていました。アルフレードの愛称がディーノで、父のエンツィオ・フェラーリは赤ん坊の時からいつも、お前は大きくなったらレースに出て優勝すると語りかけてきたからです。エンツィオは、かつてはミラノのアルファロメオ社のテストドライバーで、レースで走ったこともあります。アルファロメオもイタリアの有名な自動車メーカーですね。しかし、ディーノが生まれるとドライバーからは足を洗い、その子に果たせなかった夢を託すことにしました。ディーノがハンドルを握り、メルセデス・ベンツにも負けないフェラーリのサポーター・チームが彼を支える・・・。

ところがディーノは身体が弱かったのです。本来ならば遊び盛りの幼児の頃も、いつまでもよちよちとバランスが悪い歩き方で、転ぶとすぐには立ち上がれません。どう見てもレーシング・マシンの過酷なドライビングに耐えられそうもありません。小学校の終わ

りの頃には、歩くのもおぼつかなくなってしまいました。父のエンツィオは方針変換し、ディーノには頭で勝負してもらい、父の会社の跡とりにすることにしました。

その頃、エンツィオはアルファロメオ社と縁を切り、フェラーリ社独自のレーシング・マシンの製造をはじめ、1950年には第一回F1レースに参戦し、翌年には早くも優勝する程の快速撃で、一般向けのスポーツカーのビジネスも好調です。

ディーノはスイスに行って自動車工学を学び始めましたが、筋肉が痩せて体力が衰え、二年しか続けられませんでした。そこでフェラーリ社に入社し、経験と知識をつけるために、1500cc、6気筒のV型エンジンの開発チームに加わったのです。これは後にF2レー



フェラーリが製造した初のミッドシップ2座席スポーツカー ディーノ

ス車のエンジンとして使われ、更には大型の改良型がF1マシンにも搭載されました。

彼はデュシェンヌ型筋ジストロフィーと診断されて入院しましたが、最期の日の直前まで、病室で技術者と6気筒エンジンについてディスカッションしていましたが、1956年6月に24歳で他界しました。

フェラーリ社は、志半ばで若くして逝ったディーノのメモリアルとして、彼が開発に参加したV6気筒エンジンを搭載したスポーツカーをディーノと名付けて世に出しました。彼へのメモリアルはそれだけではありません。エ

ンツィオは1978年にミラノ大学医学部の中にツェントロ・ディーノ・フェラーリという研究所を開設し、筋ジストロフィーなどの難病の研究と啓発活動をしています。イタリアは筋ジストロフィーの研究も活発で、このツェントロが支えています。

跳ね馬のエンブレムを見るたびにディーノのことを思い起こします。彼が今の時代の若者でしたら、学ぶのはやはり自動車工学だったでしょうか？それとも彼の病気は最も早くDNA異常が分かり、最も早く遺伝子治療がなされている。遺伝子工学だったのでしょうか？

鈴鹿病院 NEWS

「古希のお祝い会」をひらきました

西2階病棟において、70歳を迎える患者さん1名に対して「古希のお祝い会」を3月1日（水）に開催しました。対象者ご本人が鈴鹿病院に入院されてから現在に至るまでの写真をスライドショーにしたものや、病棟看護師長・受け持ち看護師からの祝福メッセージ・紅白の風船や歌の披露などで盛大に祝福しました。他患者さんのご家族からは「うちの子の時もしてもらえかしら」「私も一緒にしてもらえばよかったわ」という声があがり、病棟全体で充実した時間を共有することができました。



古希のお祝い会で充実した時間を共有しました

永年勤続表彰をおこないました

長きにわたり職務に精励した職員をたたえる「永年勤続表彰式」を5月15日（月）におこない、計5名が表彰を受けました。

式では、久留病院長より「独立行政法人化される前から勤務している私たちが中核となり、後継者の育成など、充実した医療を提供していきましょう。」とねぎらいの言葉をいただき、受賞者らは皆充実した表情をみせました。

今年度は30年表彰として近藤範康さん、丹羽鈴美さん、堀越あゆみさん、20年表彰として久留聡院長、伊藤玲子さんが受賞されました。



永年勤続表彰を受けた5名の職員

■ 外来診察担当表 (2017年5月1日現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井 木 村	久 留 南 山	小 長 谷	久 留
内 科	野 口	内 科 医 師	安 間 (循環器内科)	安 間 (循環器内科)	棚 橋 (循環器内科)
小 児 科		予 約			予 約
整 形 外 科		田 中 (装 具 外 来)			田 中
リハビリテーション科					田 中
皮 膚 科		予 約			
歯 科	黒 原	稲 垣 (午後)		永 田 (午後)	
禁 煙 外 来	野 口			安 間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします (あらかじめ電話予約のうえお越しください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス 椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



■ 編集後記

温かい陽気とともに、新年度がスタートしました。4月からは小長谷院長が名誉院長に、院長に久留聡先生が就任されました。新しい職員も増え、とても賑やかな雰囲気になっています。フレッシュな人たちに囲まれ、私自身も気が引き締まる思いです。今年度も患者さん1人ひとりのペースを大切にしながら、さまざまなことに取り組んでいきたいと思いますので、温かく見守って頂けると嬉しいです。

(児童指導員 丸澤 由美子)

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

平成29年5月発行